基本条件の照査項目一覧表(道路幅杭設計)

(照　　査①)

基本条件の照査項目一覧表（道路幅杭設計1）

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査① | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11  12  13  14  15  16  17  18  19  20  21  22 | 設計の主旨・目的  貸与資料の問題点  現地踏査結果  設計条件  幾何構造、 線形条件  協議関連資料  縦断設計  （本線）  平面縦断設計  （道路等施設）  用排水設計  平面、断面、横断図作成  付替・取付道水路  施工条件  土工及び法面工  軟弱地盤対策工  溝渠工  擁壁及び補強土壁  用排水処理  舗装工  付属施設  関連道路（側道、副道、  取付交通）  防雪対策  環境及び景観検討 | 1) 設計の目的、主旨、範囲を理解したか。  2) 地域構想（自転車道整備ネットワークやバリアフリー  特定経路等）、関連計画（沿道開発、関連道路の改良計画等）  等について把握したか。  3) 設計の主な内容、工程などについて具体的内容を把握したか。  特記仕様書との整合は確認したか。  または、管理表を提出し内容を発注者と確認したか。  4) 技術提案がある場合は、作業計画書に技術提案の内容が  反映されているか。  1）貸与資料は最新版であるか確認したか。  また、不足点、追加事項があるか確認したか。不足がある場合には、  資料請求、追加調査等の提案を行ったか。  2）事務所、路線毎に統一された基準要領があるか。  3) 申し送り事項を確認したか。  4) 基準・要領等があるか｡また、最新版であるか確認したか。  5) 最新の用地資料（幅杭、用地平面図等）はあるか。  1）地形、地質、気象、用・排水、土地利用等現地状況（用地）、  保安林や土砂災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。  2）沿道状況(取付道路、取付坂路含む)、交通状況(自転車、  歩行者含む)、、道路利用状況（通学路指定の有無、歩道構造、  乗入部含む）、河川状況等を把握したか。  3）社会環境状況（日照、騒音、振動、電波状況、水質汚濁、  土壌汚染、動植物、井戸使用等）　また、環境調査等の資料の  有無を確認し入手したか。  4）台帳等を入手したうえで、支障物件の状況を把握したか。  （地下埋設物：下水、水道、ガス、電力、NTT、通信、共同溝  等及び架空線、樹木、名勝、旧跡等）  1）道路構造（道路規格、道路横断構成、道路区分、計画交通量  、設計速度、横断面等）を確認したか。  2）設計に使用する技術基準、参考図書や各自治体における  条例等、適用基準を確認したか。また、最新版であるか  確認したか。  3）実施済みの関連する最新の設計成果等との整合がとれているか。  　また、前段の設計を基に詳細設計（修正設計）を行う場合、  過年度経緯を確認し成果の照査を行ったか。  4) 整備計画（暫定計画・部分供用の有無等）を確認したか。  5) 飛地や用地分断等、用地図から機能補償道路に漏れがないか  確認しているか。  6) コントロールポイント条件は整理されているか。  7) 既往調査結果より、地質、地盤の性状及び地下水状況は  確認したか。  8) 測量成果の内容（測量座標系と座標、高さの基準と地形図、  線形との整合、震災補正の状況）などを確認したか。  9) 積雪寒冷地、およびその度が甚だしい地域の適用が適正か。  10) 休憩施設、チェーン着脱場等の計画は確認したか。  11) 施工時を含め、作用する荷重条件を確認したか。  12) 道路土工について、影響する作用、要求性能、重要度に  ついて確認したか。  13) 盛土の重要度及び要求される性能は決定しているか。  1）平面及び縦断線形の採用値及び縦断・横断視距の確保  は適正か。（積雪寒冷地の適用の有無）。  組み合わせは適正か。また、修正設計の場合、設計条件の  どの部分が変更となったか確認したか。  2）幾何構造の使用値（歩道の有無、車線幅員、片勾配、視距等）  は適正か。  3）幅員構成は適正か。（標準幅員、積雪寒冷地路肩等）  4) 積雪寒冷地等の場合、積雪寒冷地等の地域特性を踏まえた  幾何構造の使用値となっているか。  5) 隣接工区や土工、橋梁、トンネル等との取合い  （路肩摺り付け，翼壁，排水処理，構造物掘削等）を配慮したか。  6) 幅員の決定根拠は明確で適正か。（道路規格との適合、  積雪寒冷地の適用及び堆雪幅、道路付属施設に配慮した  有効幅員の確保など）  7) 溝渠工の上部では排水施設や通信管路等埋設物、防護柵の  設置に必要な土被りが確保されているか。  8) 交差施設との交差条件は明確か。（交差方法、交差角、  幅員、建築限界、余裕高など）  9) 分合流部の幾何構造採用値は適正か。また、分流部の  オフセットについて確認したか。  1）公差協議の調整内容を確認したか。  2) 関連機関（関係諸官庁、諸機関）との調整内容を確認したか。  3) 河川協議、海岸・地すべり防止・土砂災害警戒区域等との協議、  近接・交差協議、流末協議は適切に実施されているか。  4）地元及び地権者との調整は確認したか。  5）地下占有企業者との調整は確認したか。  6）砂防指定、保安林及び埋蔵文化財等との調整は確認したか。  7）各県公害防止条例（土壌汚染対策法等）の適用区域及び  規制値を確認したか。  8）都市計画及び土地利用、用途地域、借地の有無等を確認したか。  9）開発行為及び電線類地中化を確認したか。  10）本線外盛土場、または土取場の位置、規模は確認したか。  11）関連公共事業の将来計画、地域構想等を確認したか。  12）排水工及び流末排水処理の調整は確認したか。  また、協議相手を確認したか。  13) バス路線になるかどうか確認したか。  14) 占用者との調整内容を確認したか。  15) 配慮すべき法令は確認したか。  1）平面線形との組合せ条件を確認したか。  2）橋梁、トンネル等の位置及び延長等を、  他の設計より整理し理解したか。  3）交差構造物のクリアランス等の条件を整理し確認したか。  （凍上対策を含む）  4）登板車線の有無を確認したか。  1）概略設計及び協議用図面に使用した平面及び縦断線形要素を  整理し、規定値を満足しているか確認したか。  2）概略設計及び協議用図面の成果品における基本値等の  変更等について確認したか。  1）降雨強度、降雨確率年、確率強度、算定式、流出係数  （土地利用状況及び開発計画を考慮）、粗度係数の設定は適正か。  2）集水域の取り方、尾根区分及び集水面積区分は妥当か。  3）土地利用状況及び開発計画を考慮した流出係数の決め方は  適切か。  4）概略設計、協議用図面、協議資料及び現地踏査により  流末排水の取付位置は確認したか。  5) 通水量の算定は妥当か。(粗度係数等)  6) 路肩側溝や横断管などの排水施設の選定は妥当か。  （経済性、施工性、機能性、計画性、維持管理）  7) 断面余裕の設定は適正か。  8) 排水勾配(流速の許容範囲)は妥当か。  9) 最小土被りの設定は妥当か。  10) 協議が必要となる関連機関、協議事項について整理・  把握されているか。  11) 地下排水工（地下排水溝、水平排水層、基盤排水層等）や  盛土内水平排水工は適切に設置されているか。  また、地盤条件は考慮しているか。  12) 排水構造物は排水性舗装に適合しているか。  13) 地下埋設物との調整（占用者との協議を含む）は確認したか。  14) プレキャスト製品の適用方法は適正か。市場性や  地域性などを考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を  確認したか。  1）土質・地質調査の成果品のうち、調査総合解析（A）、  （B）、土木地形地質図（1/1000）及び攪削区分縦・横断図に  おける地すべり等について整理し、把握したか。  2）土質・地質調査の成果品における軟弱地盤等の沈下解析・  安定解析及び対策工法の検討について整理し、把握したか。  3）土質・地質調査、概略設計及び協議用図面作成の成果品及び  協議資料等により縦・横断線形の変更有無を確認したか。  （交差協議、地すべり等、軟弱地盤等）  4）切土のり面の土質を整理し、崩壊性要因をもつ地質か否かを  確認したか。  5）軟弱地盤処理及び地すべり等のり面保護工に提案を行う  必要があるかを確認したか。  6）視距拡幅を必要とする区間の有無を確認したか。  7）側道の設置区間および設計基準を確認したか。  8）土羽土の要・否を判断したか。  1）移管先に特別の規定および基準の有無を確認したか。（材料等）  2）取付水路の砂防指定の有無を確認したか。  1) 工事時期と工程及び施工手順を確認したか。  2) 暫定施工時の施工区分を把握したか。  3) 現道拡幅時の施工区分を把握したか。  4) 施工計画に関する既存資料を入手・確認したか。  5) 施工に支障となる旧施設の撤去条件を確認したか。  6) 近接構造物等への影響を考慮する必要があるか。  1) 土質定数（湿潤重量、飽和重量など）の設定、地下水位、  湧水状況等の把握は適正か。また、地質データが不足する場合、  追加調査の提案等を行ったか。  2) 切土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅、  ラウンディング形状は適切か。  3) 盛土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅は適切か。  4) 切土あるいは盛土による斜面の安定検討は必要か。  5) 切土材料は盛土材料に転用できるのか。  6) 法面対策工法の必要性について整理しているか。  7) 土砂の処理場や採取場及び土運搬経路の把握はしてあるか。  8) 環境や景観に関して考慮しているか。  9) 盛土材の設計条件は適切か。  　・盛土材料の使用区分、建設発生土利用（スレーキング材、  　　高含水材等）への配慮  　・盛土材物性値（路体盛土の土質定数、路床盛土のCBR）  10) 土質定数は函渠工・擁壁工設計との整合性を考慮して設定  しているか。  1) 軟弱地盤の分布について調査・確認されているか。また、  存在する場合、対策の必要性、工法等が整理されているか。  2) 盛土の施工期間及び施工方法(迂回路計画等)は決まって  いるか。  3) 盛土施工厚と施工工程とのバランスがとれているか。  (緩速盛土、プレロード及びサーチャジ工法等の地盤強度増加と  施工時及び完成後の盛土の安定性）  4) 残留沈下量と交通解放時期の基本方針は決定しているか。  5) 地質調査は目的にあった調査、解析をしているか。  6) 盛土材の土質試験はしてあるか。また、その土質定数は  把握しているか。  7) 軟弱地盤解析項目（円弧すべり、圧密沈下、液状化）の  許容値は適正か。また、周辺の土地利用を考慮した  許容値としているか。  8) 軟弱地盤上に設置される函渠の場合、残留沈下量に対する  内空断面の対策は考慮されているか。  9) 環境、用地に対する制限はないか。また、影響を検討する  家屋や施設、地下埋設物はないか。  10) 置き換え残土の処理場はあるか。  11) 側方流動の影響を受ける構造物(擁壁、橋台等)及び  沿道施設はないか。  1) 標準設計の適用方法は適正か。  2) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。  3) 従来型カルバートの適用範囲内か、また、重要度区分、  要求性能は決定しているか。  4) 耐震設計が必要な場合、設計手法は適切か。  5) プレキャスト製品の適用方法は適正か 。市場性や地域性などを  考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。  6) 施工条件を考慮しているか。  7) 縦断方向のすべりに対する対策は必要か。  8) 縦断方向（構造物方向）の設計の必要性は確認したか。  9) 踏掛版の必要性を確認したか。（ヤード、資機材運搬路等）  10) 溝渠内、溝渠頂版上部の防護柵の必要性を確認したか。  11) 土被りの条件は妥当か。土被りの変化が大きい箇所での  断面変化は考慮してあるか。  12) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。  13) 地盤条件(支持力、地下水位等)は整理してあるか。  14) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されているか。  (プログラム等)  15) 適用する設計基準は確認されているか。  16) 躯体の延長やウイングの形状（高さ、長さ、巻き込みとの  取り合い）の決定根拠は適正か。  17) 内空断面（幅員、建築限界、河川条件、溝渠内舗装、  路面排水施設、占用物件（証明、水道、ガスなど）、片勾配、  照明、平面形状、縦断勾配の設定は適正か。  18) 塩害に対する検討の必要性を確認したか。  1) 所要高さ決定の根拠は適正か。道路線形との整合はとれて  いるか。  2) 種別・型式選定の根拠や適用範囲（高さ、延長、地形条件等）  は適正か。  3) 線形の変更、用地の利用、擁壁構造変更等によって擁壁の  規模縮小が可能か。また、工夫を行う余地があるか。  4) 標準設計の適用方法は適正か。（擁壁形式、高さ、地盤条件、  背面土の形状）  5) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。  6) 耐震設計が必要な場合、設計手法は適切か。  7) プレキャスト製品の適用方法は適正か 。市場性や地域性などを  考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。  8) 用地境界までの余裕幅を確認したか。  9) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。  10) 基礎型式選定のための地盤条件は整理されているか。  11) 施工条件（現道交通、施工ヤード、資機材運搬路）を  考慮しているか。また、遮音壁、落下物防止柵、標識、  照明等の設置条件を考慮しているか。  12) 全体的なすべりの安定性確認は必要か。  13) 適用する設計基準は確認されているか。  14) 擁壁の重要度区分、要求性能の設定は適切か。  15) 衝突荷重を見込む構造か。遮音壁は設置されるか。また、  その場合の風荷重は適正か。  16) 地覆、高欄、防護柵、転落防止柵は適正か。  17) 塩害に対する検討の必要性を確認したか。  18) 根入れやフーチング上の土被りは適正か。（交差条件等）  1) 用水系統は適正か。また、用水路の統廃合について、  土地改良区や地元での聞き取り調査等、関係者との調整は  整っているか。  2) 排水系統は適正か（曲線部の片勾配高さを反映）。また、  水路管理者等と調整を行っているか。  3) 盛土構造の基盤排水、法尻排水は適正か。また、切盛境、  片切片盛り、沢部盛土等の排水処理は適正か。  4) 調整池や油水分離桝設置の必要性や関係機関との協議結果を  確認したか。  5) 流末協議（放流先や途中の既設水路）は適正に実施されて  いるか。  1) 設計条件を確認したか。（交通量区分、舗装の設計期間、  舗装の種別、疲労破壊輪数、舗装計画交通量、信頼度、  設計ＣＢＲ、必要ＴA、適用箇所、寒冷地域の凍結深さ等）  2) 仕様規定か性能規定を確認したか。  3) 規定条件を満足しているか。  4) 再生材の使用は考慮されているか。  また、再生材は所定量入手可能か確認したか。  5) 特別箇所(軟弱地盤、低盛土等)の路床改良の要否を確認したか。  6) 路盤材料は市場性や地域性などを考慮しているか。  また、隣接工区での使用状況等を確認したか。  1) 設計が必要な付属施設や道路施設は確認されているか。  2) 配置及び規格は適正か。  3) 種別及び設置条件は適正か。  4) 設置のための事前調査は実施されているか。  5) 防護柵の要否、設置基準の確認、種別の選択、設置条件、  標準仕様の適用等は適正か。  6) 景観、環境及び歩行者の安全に配慮されているか。  1) 幅員、延長、断面、道路幾何構造は適正か。  2) 沿道に対する高さ等の取合は考慮してあるか。  3) 舗装構成は決定しているか。  4）関連協議で必要事項は確認されているか。  1) 雪崩、地吹雪対策は考慮する必要があるか。  2) 雪況調査は実施されていたか。  3) 対策工設置のための用地を設定したか。また埋設物や  支障物件を確認したか。  1) 景観検討の必要性、方針、内容、範囲等を理解したか。  また、遮音壁等の設置要件（位置、基礎構造）に問題はないか。  2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなって  いるか。 | 作業計画書  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  現場写真他  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  打合せ・記録簿  〃 |  |  |  |

細部条件の照査項目一覧表(道路幅杭設計)

(照　　査②)

細部条件の照査項目一覧表（道路幅杭設計2）

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査② | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11  12  13  14  15  16  17 | 協議関連  設計基本条件  一般図  縦断設計  （本線）  平面・縦断設計  （連絡等施設）  平面図作成  縦断図作成  横断図作成  用排水工  土工及び法面工  溝渠工  擁壁及び補強土壁  舗装工  付属施設  軟弱地盤対策工  施工計画  環境及び景観検討 | 1）協議は諸条件と合致しているか。  1）新技術の採用について検討したか。  1）平面図、縦断図、横断図は設計基本条件と整合が図られて  いるか。  1）コンロトールポイントとなる交差構造物とのクリアーは  確保されているか。  2）切盛の土量バランスを考慮したか。  3）縦断勾配と横断勾配との合成勾配は適切か。  4）平面コントロールポイントとの整合性は確認したか。  5）路面排水を考慮した縦断計画をしているか確認したか。  1）本線合流部およびランプ部  a）平面線形は規定値を満足しているかを確認したか。  b）始終点およびノーズ点における離れの取り方等は適切か。  c）最小ノーズ間距離は規定値を満足しているか。  d）変速車線長が適切かを確認したか。  e）ノーズ付近の本線とランプ単路部との線形の整合性を  確認したか。（特に積雪寒冷地の合成勾配は規定値を  満足しているか。）  f）横断勾配のすり付けを考慮した設計となっているかを  確認したか。  g）本線合流ノーズ部の見直し距離及び平面Y型ICの交差部に  おける交差視距が確保されている事を確認したか。  h）交通量型、型式、設計速度を考慮したノーズ、オフセット量  及びすり付長となっているかを確認したか。  i）分合流部におけるバランス及び補助車線は適切か。  2）IC料金所部  a）料金所の車線数は適切か。  b）料金所広場における最左車線幅員及びブース幅は設計値を  満足しているか。  3）SA・PA及びバスストップ  a）ランプ最少長は確保していることを確認したか。  b）休憩施設の駐車容量、園地の規模及び配置、外側分離帯の  幅及びサービス道路の設置は適切か。  c）IC併設バスストップの位置及び形式選定は適切か。  d）バスストップの乗降場規定は適切か。  e）IC併設バスストップの上下線連絡はとれる構造と  なっているかを確認したか。  1）付替・取付道水路、側道、用排水路等は適正に表示されて  いるかを確認したか。  2）橋梁、トンネル及び交差構造物等は正しく表示されているか  を確認したか。  3）排水系統図との整合性を確認したか。  4）車線、側帯、路肩、保護路肩、及び積雪寒冷地における  管理用帯は適切に表示されているかを確認したか。  5）軟弱地盤処理工及び地すべり等の対策工を土質・  地質調査報告書との整合を確認したか。  6）幅杭設置位置（補助杭を含む）は適切か。  1）橋梁、トンネル及び構造物等の作図と旗上げに不都合は  ないかを確認したか。  2）ボーリング柱状図は正確に記載されている事を確認したか。  3）切盛境の路床すり付は明示されているかを確認したか。  4）線形の変化点等、基本点及び数値の表示は正確かを確認したか。  5）片勾配のすり付け表示は適切か。  6）軟弱地盤処理工及び地すべり等の対策工を土質・地質調査  報告書との整合を確認したか。  7）提案し採用された軟弱地盤工及び地すべり等のり面保護工が  適正に表示されているかを確認したか。  1）幅員構成要素とその値は適正に図化されているか。  2）特殊部の位置及び構成要素とその値は適正に図化されているか。  （堆雪余裕幅、遮音築堤、登板車線、非常駐車帯、視距拡幅）  3）片勾配のすり付け及び合成勾配は適切か。  4）切土・盛土の小段高、小段幅、のり勾配は適切か。  5）切土部の保護路肩の構造は適切か。  6）のり面勾配の連続性は適切か。  7）のり面保護工の選択は適切か。  8）切土部に設置する側道の小段勾配は適切か。  9）橋梁、トンネルとの整合はとれているか。  10）排水工検討からの修正（断面、高さ、勾配）はされているか。  11）平面展開から取付・付替道路（水路）との整合がとれているか  を確認したか。  12）土性区分の記入は適切か。  13）土工基面部の旗上げ、高さ表示はされているか。  14）断面積、のり長、のり面仕上げ等の記入旗上げは適応か。  15）軟弱地盤処理工及び地上り等の対策を土質・地質調査報告書と  の整合性を確認したか。  16）のり面保護工の表示は適正か。  17）土羽土の表示は適正か。  1）流出量Qの算出は適切か。また、砂防指定地域における  土砂混入による平均流速の低減は確認されているか。  2）水路の設計通量qcの算定は適切か。  3）諸条件による溝流流量の低減を確認したか。  4）流出量Qと設計通水量qcは、Q≦qcで、かつQ＝qc程度と  なっているか。  5）流末排水の取り付け位置は良いか、又、排水系統は良いか。  6）排水構造物の工種選定は適切か。  7）排水施設相互及び道路施設との取合いは考慮されているか。  8）安全対策(蓋、防護柵等)は考慮されているか。  9）流末はチェックされているか。(流末河川のＨＷＬより  下の場合の対策が行われているか。）  10）最終流末までの流下能力、断面に不足は無いか。  11）排水系統図を作成しているか。また、排水系統は適正で、  協議結果が反映されているか。  12）現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、  管理者の指定する基準等に準じているかを確認したか。  13）設計区間外の施設との取合いは考慮されているか。  14）既設水路等の付替えは、必要に応じ切廻しを検討してあるか。  15）道路路面の片勾配摺付け区間において、路肩排水施設等の  滞水は無いか。  16）排水ますと縦断サグ点との位置関係に問題はないか。  1）岩盤推定線は記入されているか。また、その根拠が  整理されているか。  2）用地の余裕幅は適正か。  3）法面保護工の選定は適正か。また、法面対策工法  （アンカー、ロックボルト）の計算根拠は適正か。  4）法面構造（勾配、形状、小段、排水施設等）は適正か。  5）盛土に要求される性能は満足するか。  6）排水対策は適正か。  1）本体長、伸縮目地の決定方法は適正か。  2）軟弱地盤上に構築される場合の鉛直土圧係数は考慮してあるか。  (杭基礎などの場合)  3）沈下の大きい場所での特別の処置(段落ち防止枕等）は  考慮しているか。  4）不等沈下はないか。  5）斜角のつく場合の考慮をしてあるか。 （斜角部の設計方法）  6）踏掛版の形状、寸法は適正か。  7）基礎工の選定は適正か。また、隣接する擁壁等と  基礎工との整合は図られているか。  8）標準設計適用以外の応力チェックはされているか。  9）ハンチの形状は妥当か。また、ハンチを設けない場合の  部材厚は適切か。  10）ウイングの厚さやウィングのハンチの大きさは適切か。  11）防水工および継手構造は適切か。  12）照明配管、排水は考慮されているか。  13）構造細目および配筋に対するチェック（使用鉄筋径、  組合せ、鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、  フック形状、スターラップ筋の加工形状等）はされているか。  14）管理上の問題は残されていないか。（道路、水路等）  15）現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、  プレキャストの場合、現場条件と適用条件の整合を確認したか。  16）耐震設計の方法は適正か。  17）施工時の切り回し計画は妥当か。  18）使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。  19）地下水や液状化地盤に対する検討がされているか。  （浮上り検討）  20）想定している埋戻土の土質定数は適切か。  1）標準設計適用以外の設計計算は実施する必要があるか。  2）擁壁高さの決定、地山の取合、底面の勾配は適正か。  3）背面土の適用は適正か。(施工時の安定性等)  4）目地間隔は適正か。  5）液状化の検討は適正か。  6）基礎工の選定は適正か。また、斜面上の基礎の場合、  地盤の傾斜を考慮した検討を行っているか。  　・直接基礎(地盤反力、安定、置換深さ等)  　・杭基礎(杭間隔、杭種、杭径、定着方式等)  7）根入れ深さは適正か(土質条件、水の影響)、斜面部での  余裕幅は適正か。  8）地下水、湧水等の処理について考慮してあるか｡  9）施工性を考えた構造となっているか。(地形その他の  現場条件による機械の選定条件等)  10）応力計算時の常時、地震時の選択は適正か。  11）耐震設計の方法は適正か。  12）配筋に対するチェックはされているか。  13）擁壁天端に作用する荷重は適正か。（衝突荷重、風荷重等）  14）地下埋設物との取り合いは問題ないか。  15）構造細目は妥当か。（使用鉄筋径、組合せ、かぶり、  ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状、スターラップ筋の  加工形状、補強材の長さ等）  16）使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。  17）想定している埋戻土の土質定数は適切か。  1）舗装工の設計は適正か。（舗装材料、舗装構成、構築路床等）  2）段階施工のできる設計となっているか。  3）再生材の使用は適正か。  4）従道路及び車輌乗り入れ部の舗装構成は適正か。  1）設計が必要な交通安全施設（防護柵、照明施設等）、  交通管理施設（情報ボックス、道路標識、マーキング等）等は  確認されているか。  2）標準設計図集の適用は適正か。  3）道路条件（幅員、断面形状等）を確認したか。  4）土質条件は適正か。  5）型式及び形状の選定は適正か。  6）基礎工の選定は適正か。  1）土質定数は整理されているか。  2）盛土工程は適切か。(一般盛土部、構造物、交通、  水路切り廻し等)  3）対策工の必要性と工種及びその範囲は適正か。また、  構造物基礎工と連動して、改良余裕幅や緩衝帯の設置を  確認したか。  　・盛土安定対策  　・沈下対策  　・液状化対策  　・その他  4）サンドマットの厚さは施工性を考慮したか。  5）動態観測の計画は作成されているか。  6）暗渠排水計画(形状、間隔)は適正か。  7）沈下量を土量計算しているか。  8）用排水路で沈下すると不都合なものはないか。ある場合は  その対策は適切か。  9）周辺地盤・施設に対する影響を確認し、必要に応じて  対策方法を検討しているか。  1）工区分けは適正か。(暫定施工の有無を含む)　また、  土量バランスや運土計画を考慮しているか。  2）他事業や他工事との土配処理等の整合を確認したか。  3）打合せ事項は反映されているか。  4）施工方法及び手順は妥当か。また、他工区と施工時期の  調整は取れているか。支障物や埋設物の撤去・移設は  考慮しているか。  5）暫定施工の考え方（幅員の整合、線形のすりつけなど）に  問題はないか。  6）工事用道路（長尺物等の搬入）の経路・勾配は妥当か。  1）事業中、完成後の環境対策（騒音・振動、自然由来の重金属、  動植物等）は妥当か。また、騒音・振動等は規制値を満足  しているか。  2）景観(植裁等)性は妥当か。 | 打合せ・記録簿  打合せ・記録簿  設計図書  設計図書  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  報告書  〃  設計図書  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  報告書  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計計算書  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書及び  設計計算書・  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書及び  設計計算書・  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  報告書  〃 |  |  |  |

成果品の照査項目一覧表 (道路幅杭設計)

(照　　査③)

成果品の照査項目一覧表（道路幅杭設計3）

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査③ | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  12 | 用地幅杭調書  用排水系統図作成  工事用概算数量算出  設計計算書  設計図  数量計算書  施工計画書  設計調書  設計概要書  報告書  TECRISの登録 | 1）取付・付替道水路、交差構造物及び側道等における  測点以外の補助幅杭が必要な位置で幅杭調書の記載不足が  ないかを確認したか。  1）全体的な用排水計画を協議資料、流量計算及び流末水路等  より確認したか。  2）用排水構造物の工種、構造は、流末水路の構造、流量、  移管条件を考慮のうえ、経済的な選定がされているかを  確認したか。  1）土量計算に使用した変化率は適切か。  2）暫定施工の場合における施工車線設定は、打合せどおりか。  1）打合せ事項は反映されているか。  2）用排水の流出量と通水量を照査したか。  3) 設計条件、施工条件は適正に反映されているか。  4) インプットされた値は適正か。  5) 各検討設計ケースは適切か。  6) 荷重、許容応力度の取り方は妥当か。  7) 安定計算結果は許容値を満たしているか。  8) 荷重図、モーメント図等は描かれているか。  9) 施工を配慮した計算となっているか。  10) 応力度は許容値を満たしているか。また、単位は適正か。  11) 隣接工区との整合はとれているか。  12) 図・表の表示は適正か。  1）縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と  整合しているか。  2）打合せ事項は反映されているか。  3）解り易い注記がついているか。  4）設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。  　（特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて  整合しているか。）  　・かぶり  　・壁厚  　・鉄筋（径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、  　　主鉄筋の定着長、段落し位置、ガス圧接位置）  　・鋼材形状、寸法  　・使用材料  　・その他  5) 全体一般図等に必要な項目が記載されているか。  （溝渠、擁壁等）、（設計条件、地質条件等）  6) 工事にあたっての留意点を記載したか。  7) 起点・終点は適正か。  8) 必要寸法、部材形状及び寸法等にもれはないか。  9) 使用材料及びその配置は計算書と一致しているか 。  10) 設計図に防護柵の材料の仕様を明記しているか。  （T-20対応，JIS番号，防錆処理HDZ55等）  11) 鉄筋同士の干渉はないか。または鉄筋と干渉する部材が  ないか。  12) 施工に配慮した設計図となっているか。  13) レイアウト、配置、文字サイズ等は適切か。  14) 図面が明瞭に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけが  なされているか。）  15) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。  1) 数量計算は、数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。  （有効数字、位取り、単位、区分等）  2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。  3) 数量取りまとめは、種類毎、材料毎に打合せ区分にあわせて  まとめられているか。  4) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。  5) 施工区分及び段階施工、暫定施工を考慮した数量計算書と  なっているか。  6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。  7) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと  整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。  8) 使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。  1) 施工方法、施工手順が妥当であるか。  2) 施工時の道路、河川等の切り廻し計画は適正か｡  3) 経済性、安全性（自動車、自転車、歩行者）が  配慮されているか。  4) 工事用道路、運搬路計画は適正か。  5) 施工ヤ－ド、施工スペ－スは確保されているか｡  6) 暫定計画、完成計画との整合はとれているか。  7) 全体事業計画との整合が図られているか。  8) 関係法令を遵守した計画になっているか。  9) 施工に対する申送り事項が記載されているか。  1) 設計調書の記入は適正になされているか。  2)設計条件、幾何条件、  主要寸法、主要数量（例、m2当たりコンクリート量、  m3当たり鉄筋量、m2当たり鋼重等）を類似例、一般例と  比較したか。  1) 設計概要書は作成したか。  1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を  満足しているか。  2）打合せや協議事項は反映されているか。  3）設計条件の考え方が整合しているか。  4）各種比較、検討の経緯と、その結果が整合されているか。  5）今後の課題、施工上の申し送り事項及び工事発注に際しての  留意事項が記述されているか。  6）設計基準値の技術指針等より引用している場合には  出典図書名及びページを明記しているか。  7) 「調査等業務の電子納品要領」に基づいて適正に作成したか。  1）TECRISの登録はされたか。  2) TECRISの内容について、発注者と確認を行ったか。 | 用地幅杭調書  設計図書  設計計算書  報告書  〃  数量計算書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  数量計算書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計調書  〃  報告書  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  登録証明書  〃 |  |  |  |